

## 地球環境を視野に入れた住環境教育の一連の活動

正会員 宿 谷 昌 則 君

本業績は、その性質から三つに大別される。ひとつは、建築環境学におけるパッシブシステムとエクセルギーの考え方に関する研究成果に基づく著作活動を中心としたものである。いわゆる専門家向けの教科書から一般市民を対象とした住環境の普及啓発書にわたり、パッシブ技術をベースとした住環境教育の必要性を説き、その普及に貢献した。

最も特筆される業績として、地球環境配慮型の建築とそれに応じたライフスタイルの形成を目指した、住環境教育プログラム開発に関する実践的活動の実績である。この教育普及には、知識の伝達ではなく建築環境の快適な質感を体験・体感することであり、そのためのプログラムの必要性を実感して開発に当たった。その中で、実際に得られた体感と自分のイメージを対応させ、環境物理量を子どもたちや市民が実際に測定し得られた体感に基づいて、物理量の価値付けを行う学習プロセスの必要性を見いだしている。そして、学習プロセスの仮説を設け、いくつかの試行を経て、教育プログラムの提案に至った。これらは、身近な題材を身の回りの素材で作成して実験し、プログラムに展開するものであり、等身大の身体感覚をもった教育方法として繰り広げられた。年代や職業を問わず、プログラム参加者の深い理解を可能としている点が高く評価される。

この開発されたプログラムが、一部の実践にとどまることでは、その価値が発揮されない。これが小学生から中学生、高校生、学校教職員そしてビルダーに至るまでの幅広い対象を相手に社会貢献活動として実践されていることが、業績の特筆される二点目である。このプログラムの有用性が見いだされ、環境省モデル事業「学校エコ改修と環境教育」が事業として採択され、広く全国的な事業として行われたことが普及につながった。そこでは、受賞者自身による全国のモデル校における体験型住環境教育の実施によって、実践の積み重ねになった。学校のエコ改修事業は、学校のあり方から、環境に対してどのように対処し、そのプロセスの中で環境知識を獲得するとともに、体験・体感型の学習を行い、環境教育としての実践につながるものである。このエコ改修によって改修された校舎が教材となり、環境配慮をして学校が使いこなされ、それが地域における環境教育の拠点となることへ、受賞者が大きく寄与しているといえよう。ここから発して、市民団体や建設団体の講座での講師を務め、学校のみならず市民やビルダーの建築環境への素養を深めることへも大きく貢献した。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育業績）を贈るものである。